

ヒメフウロ	<i>Geranium robertianum</i> L.	絶滅危惧 I 類
		フウロソウ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(箕浦博之)
形態の特徴	1年草または越年草。茎は直立し、高さ20-40cmになり、よく分枝する。茎の基部は倒伏し、節から根を出す。葉は対生し、薄質で、3-5裂し、さらに羽状に細かく裂ける。花期は5-8月。花は径約1.5cmで淡紅色の5弁花。蒴果は花柱分枝とともに長さ1.5-2cm。	
生態的特徴	石灰岩地に生える。	
分布状況	本州(岐阜県、滋賀県、三重県)及び四国(剣山)に生育し、世界では温帯に広く分布する。県内では県南の西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の2地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良